

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 3 年 11 月 18 日 (2021.11.18)

【公開番号】特開 2020-65646 (P2020-65646A)
 【公開日】令和 2 年 4 月 30 日 (2020.4.30)
 【年通号数】公開・登録公報 2020-017
 【出願番号】特願 2018-199390 (P2018-199390)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 3 Z

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 10 月 7 日 (2021.10.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定条件の成立に基づいて実行される特別図柄の当否判定で大当たりとなる確率の設定を変更可能な遊技機であって、

第一操作を行いながら電源を投入した場合に、直前の電源遮断時に記憶されていた所定の記憶情報を消去すると共に、前記特別図柄の当否判定で大当たりとなる確率の設定を変更可能な第一モードへ移行した後に遊技を開始可能な第二モードへ移行し、第一操作とは異なる第二操作を行いながら電源を投入した場合に、直前の電源遮断時に記憶された前記所定の記憶情報を保持したまま前記第二モードへ移行する初期設定手段と、

前記特別図柄の当否判定の結果の結果を表示する当否結果表示手段と、

前記初期設定手段は、前記第二モードへ移行した後であって遊技が開始される前の状態において、遊技開始表示として、前記第一モードを経由して前記第二モードへ移行したときには初期表示を、前記第一モードを経由せず前記第二モードへ移行したときには一定の確率で前記初期表示を行う遊技開始表示手段と、

前記初期設定手段は、前記遊技開始表示を行う前に、前記所定の記憶情報が消去されたか否かを判別可能な記憶消去判別表示を行う記憶消去判別表示手段と、を備え、

該記憶消去判別表示手段は、前記大当たりとなる確率の設定を変更したときと変更しないときとで表示態様を相違させる、ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記初期設定手段は、前記記憶消去判別表示手段による表示を行った後、予め定められた時間経過後に、前記遊技開始表示手段を実行する、ことを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

上記課題を解決するために為された請求項 1 に係る発明は、所定条件の成立に基づいて実行される特別図柄の当否判定で大当たりとなる確率の設定を変更可能な遊技機に関する。

請求項 1 に係る発明は、第一操作を行いながら電源を投入した場合に、直前の電源遮断時に記憶されていた所定の記憶情報を消去すると共に、特別図柄の当否判定で大当たりとなる確率の設定を変更可能な第一モードへ移行した後に遊技を開始可能な第二モードへ移行し、第一操作とは異なる第二操作を行いながら電源を投入した場合に、直前の電源遮断時に記憶された所定の記憶情報を保持したまま前記第二モードへ移行する初期設定手段と、特別図柄の当否判定の結果を表示する当否結果表示手段と、を備える。

初期設定手段は、第二モードへ移行した後であって遊技が開始される前の状態において、遊技開始表示として、第一モードを経由して前記第二モードへ移行したときには初期表示を、第一モードを経由せず前記第二モードへ移行したときには一定の確率で初期表示を行う遊技開始表示手段と、遊技開始表示を行う前に所定の記憶情報が消去されたか否かを判別可能な記憶消去判別表示を行う記憶消去判別表示手段と、を備える。この記憶消去判別表示手段は、大当たりとなる確率の設定を変更したときと変更しないときとで表示態様を相違させる。

【 手続補正 3 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 7 】

また、請求項 1 に記載の発明は、遊技開始表示を行う前に、所定の記憶情報が消去されたか否かを判別可能な記憶消去判別表示を行う記憶消去判別表示手段を、備える。

これにより、ホール従業員等は、所定の記憶情報が消去されたか否かを把握できる。

【 手続補正 4 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

さらに、請求項 1 に記載の発明は、記憶消去判別表示手段は、大当たりとなる確率の設定を変更したときと変更しないときとで表示態様を相違させる。

これにより、ホール従業員等は、特別図柄の当否判定で大当たりとなる確率の設定を変更されたか否かも判別することができる。

【 手続補正 5 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 9 】

請求項 2 に記載の発明は、記憶消去判別表示手段による表示を行った後、予め定められた時間経過後に、遊技開始表示手段を実行する請求項 1 に記載の発明である。

これにより、請求項 2 に記載の発明は、ホール従業員等の作業効率化を図ることができる。

【 手続補正 6 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 0

【補正方法】削除

【補正の内容】
【手続補正 7】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 1
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 8】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 2
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 9】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 3
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 0】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 4
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 5
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 6
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 3】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 7
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 4】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 8
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 5】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 9
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 6】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 3 0
【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 17】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 18】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】削除

【補正の内容】